

STAR WARS 入門プレゼン

# スター・ウォーズ／ マンダロリアン・アンド・グロークー

シリーズを一本も観たことがない人のための、  
「この映画、なぜ今おもしろいのか」15分ガイド

# まず結論から

3行でわかる、この映画

- 鎧の賞金稼ぎと謎の緑の赤ちゃんが旅をする、西部劇のようなSF映画。
- 元は Disney+ の人気ドラマ。あまりの人気にドラマの続編を中止して映画化された。
- 製作陣が「シリーズ未見でも観られるように」と設計。予習ゼロで入れる、数少ないスター・ウォーズ。

プロデューサーのキャスリーン・ケネディは「若い観客にとってこれが“自分たちのスター・ウォーズ”になる。全シリーズを観なければというプレッシャーは感じないはず」と語っている。

# そもそもスター・ウォーズとは

未経験者のための最小限の前提

## 1977年～

ジョージ・ルーカスが始めた「遠い昔、はるか彼方の銀河系」の物語。世界で最も長く続く実写SFシリーズのひとつ。

## 「フォース」

一部の者だけが使える超能力のような力。使い手が**ジェダイ**。宇宙船と剣劇と神話が同居するのがこの世界の作法。

## 帝国 vs 反乱軍

銀河を支配する**帝国**と、それに抗う**反乱軍**の戦いがシリーズの基本骨格。本作はその戦いが「終わった後」の話。

※ 覚えるべき固有名詞はこの3つだけ。本作の理解にはこれで十分です。

# 本作は年表のどこか

帝国が倒れた「その後」の空白期

EP4-6

## 旧三部作

反乱軍が帝国を倒すまでの物語。1977～1983年公開。

本作

## マンダロリアン・ アンド・グローグー

帝国崩壊後。残党の軍閥が各地に散り、新共和国が秩序を作ろうともがく時代。

EP7-9

## 続三部作

さらに約30年後の物語。2015～2019年公開。

ポイントは「有名キャラクターがほとんど出てこない空白の時代」だということ。だから予習が要らず、まったく新しい人物の物語として観られます。

# 主役はこの2人だけ

関係性がわかれば、もう準備完了

## マンドー（ディン・ジャリン）

マンダロリアンという戦士の一族出身の賞金稼ぎ。掟により人前でヘルメットを脱げないため、顔がほぼ見えないまま芝居をする異色の主人公。演じるのはペドロ・パスカル。

## グローグー

ヨーダと同じ種族の幼児。一切しゃべらない。CGではなくアニマトロニクス（実物の人形）で作られ、現場に実在する。ネットでは「ベビー・ヨーダ」として社会現象に。

2人は血縁ではなく、成り行きで一緒に旅をするうちに親子のようになった間柄。本作ではマンドーがグローグーの師匠として育てる関係に進んでいる。

# あらすじ

※ネタバレなしの範囲で

帝国が倒れた後の銀河。マンドーとグローガーは新共和国の依頼を受け、帝国残党の軍閥を追っている。

ある日、標的の居場所と引き換えに突きつけられた条件は「**犯罪組織ハット族の跡取り息子を救出せよ**」。しかし当の本人は、闘技場のスターとして今の暮らしを気に入っており、助けられることを断固拒否する――。

監督のジョン・ファヴローは「ドラマの内容に頼らない物語にした」と明言。シリーズを観ていない観客が置いていかれない構造になっています。

# キャストと制作陣

名前を知らなくても、豪華さは伝わる布陣

| 役割    | 人物             | 補足                            |
|-------|----------------|-------------------------------|
| 主演    | ペドロ・パスカル       | 『ラスト・オブ・アス』 『ゲーム・オブ・スローンズ』    |
| 共演    | シガニー・ウィーバー     | 『エイリアン』 の伝説的女優。新共和国の大佐ウォード役   |
| 声の出演  | ジェレミー・アレン・ホワイト | 『THE BEAR』 主演。ハット族のロッタ役       |
| カメオ出演 | マーティン・スコセッシ    | あの巨匠が、店主役で声の出演                |
| 監督・脚本 | ジョン・ファヴロー      | 『アイアンマン』 でMCUを立ち上げた人物         |
| 共同脚本  | デイヴ・フィローニ      | ルーカスフィルム共同CEO。SWアニメ作品の中心人物    |
| 音楽    | ルドウィグ・ゴランソン    | 『オッペンハイマー』 『ブラックパンサー』 でアカデミー賞 |

## 裏側①：ドラマ第4シーズンが、映画になった

この映画が存在する理由

- **2023年2月**：ファヴローとフィローニがドラマ**シーズン4の脚本を完成**させる。
- **2023年**：ハリウッドのストライキで撮影開始が延期。この間にルーカスフィルムが方針を再検討。
- **結果**：シーズン4より**映画を優先**すると決定し、2024年1月に本作を発表。
- 幻のシーズン4は**スロウン大提督**を軸にした群像劇で、ドラマ『アソーカ』S2に繋がる予定だった。脚本は今も存在するという。

つまり本作は「ドラマの続き」ではなく、**映画のために一から書き直された別の物語**。未見の人が入りやすい最大の理由がここにあります。



## 裏側②：数字で見る制作

スター・ウォーズ映画としては異例づくし

92日

撮影期間（2024年夏～12月）

3,500人

エキストラ動員数

49分

IMAXフルサイズで撮影された尺

### 全編カリフォルニア撮影

SW劇場版として史上初。州から約2,180万ドルの税額控除を獲得（同制度史上有数の規模）。

### 実物へのこだわり

グローグーは人形＋VFX。さらにティペット・スタジオがストップモーションを担当。CG一辺倒ではない質感が持ち味。

仮題は「Thunder Alley」。スター・ウォーズ映画史上初めてオープニング・クレジットが付いた作品でもある。

## 裏側③：ヘルメットを脱ぐ、という決断

ファンが最も議論した一点

マンダロリアンの掟では、**他人の前で顔を晒すことは重罪**。ドラマ第3シーズンは、一度顔を見せた主人公が贖罪の旅に出るところから始まったほど。

それでも本作は、再びヘルメットを外させる。ファヴローは「**軽々しく決めたことではない**」とし、既存の設定と、パスカル表情をもっと見せたいという願望との間で天秤にかけた結果だと説明している。

主演のパスカル自身も、この作品での“素顔”は物語上正当化されていると語っている。「顔の見えない主演俳優」という企画の根幹に関わる判断だった。

## 数字で見る成績

批評家と観客が、真っ二つに割れた

約3.0億\$

全世界興行収入（製作費 1.65億ドル）

約6割

批評家スコア（Rotten Tomatoes）

約9割

観客スコア（Rotten Tomatoes）

- 批評家は音楽とパスカルの演技を絶賛する一方、脚本・映像・アクションに批判が集中。
- 逆に観客スコアはディズニー期のスター・ウォーズ映画で歴代最高。『ローグ・ワン』すら上回った。
- 興行的には公開2週目の落ち込みがSW映画史上最大の約69%と苦戦。評判と数字が一致しない珍しいケース。

※ 興行収入・スコアは集計元と時点により変動します。上記は2026年半ば時点の概数。

# ここが見どころ

未経験者でも楽しめるポイント

## ① セリフなしの名演

顔の見えない主演と、しゃべらない相棒。表情に頼らず感情を伝える演出そのものが見どころ。

## ② ゴランソンの音楽

批評家が唯一そろって絶賛した要素。可能ならIMAXなど音響の良い環境で。

## ③ 西部劇としての骨格

難しい政治劇ではなく「流れ者が厄介事を引き受ける」話。ジャンル映画として素直に楽しめる。

## ④ 実物の質感

人形、ストップモーション、実景。デジタル過多の大作とは違う手触りがある。

# 今から観るには

2026年8月現在

| 形態                 | 時期               |
|--------------------|------------------|
| 劇場公開               | 2026年5月22日（日米同時） |
| デジタル配信（購入／レンタル）    | 2026年7月21日～ 配信中  |
| Blu-ray／DVD／4K UHD | 2026年9月30日 発売    |
| スチールブック（数量限定）      | 2026年11月6日 発売    |

**予習は本当に不要？** → 不要です。ただし2時間ほど余裕があるなら、ドラマ『マンダロリアン』第1話（約40分）だけ観ておくと、2人の出会いがわかって満足度が上がります。

まとめ

## 「スター・ウォーズ、履修してないので…」 と言わなくていい一本

- 予備知識ゼロで入れるよう設計された、シリーズ屈指の入り口。
- ドラマ第4シーズンを中止してまで作られた、作り直しの新作。
- 批評家は割れたが、観客の満足度はディズニースター・ウォーズで歴代最高。
- 迷ったら、まずは配信で。難しい話は一切ありません。